

今号の焦点

トラック、倉庫とも総じて堅調に推移、今期は回復傾向へ

《物流データ》2016年度下半期（10～3月）の国内物流動向

カーゴニュースでは独自に集計している輸送実績データなどをもとに、トラック、営業倉庫、鉄道コンテナの2016年度下半期（10～3月）の国内輸送動向をまとめた。

掲載データはトラック（特積み、貸切）が編集部独自に集計した各社の輸送量・収入実績。また、スポットを中心としたトラック運賃市況は、全日本トラック協会が毎月公表している「WebKIT成約運賃」を掲載した。

倉庫については、編集部が独自集計している中堅倉庫の月別実績と国土交通省が公表している「営業普通倉庫21社統計」。また、鉄道貨物の輸送実績については、JR貨物の月別実績（コンテナ、車扱）とコンテナ販売系統別3社（全国通運、日本通運、日本フレイトライナー）を掲載した。各項目の実績と詳細は〈表〉の通り。

特積みトラック

16年度下期（10～17年3月）の特積みトラック11社の収入平均は前年同期比0・5％減、同

10社による取扱量の平均は0・3％減となり、いずれも前期をやや下回った。取扱量が前期を上回ったのは11社中5社、収入が増加したのは10社中5社と上期よりそれぞれ2社増加した。

《2016年度特積みトラック営業速報》（収入、量の対前年同月比伸び率）
（上段：収入、下段：量）

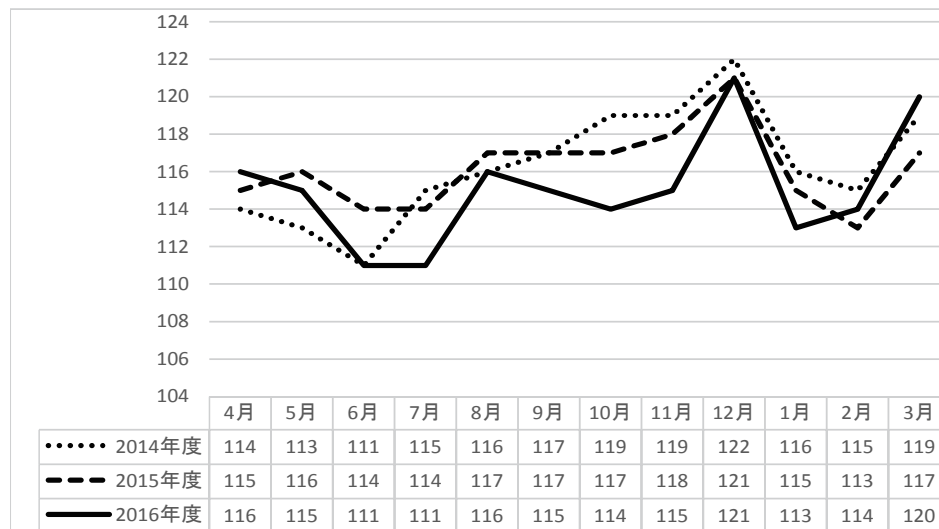
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期平均 （10月～3月）
A 社	104.7	109.5	105.6	109.7	104.1	106.0	106.6
B 社	94.5	104.9	100.5	101.2	98.5	102.4	100.3
	94.4	105.4	100.7	101.4	98.6	101.9	100.4
C 社	94.6	103.2	98.7	100.6	99.0	100.4	99.4
	94.8	99.0	96.8	99.8	96.5	98.2	97.5
D 社	96.2	106.3	101.4	102.4	100.5	102.6	101.6
	98.3	107.8	102.8	103.5	101.3	103.0	102.8
E 社	96.2	105.4	100.5	102.2	99.1	102.5	101.0
	95.4	105.9	100.7	101.7	99.0	102.0	100.8
F 社	96.4	105.8	101.5	101.8	99.2	103.5	101.4
	96.1	106.0	100.6	101.4	99.5	102.9	101.1
G 社	103.9	93.7	107.3	98.3	97.0	98.1	99.7
	103.8	91.9	105.7	99.5	96.4	96.2	98.9
H 社	94.1	104.7	99.8	100.3	97.8	100.0	99.5
	94.0	105.0	100.0	100.0	97.3	99.9	99.4
I 社	105.8	114.0	108.6	112.6	108.6	110.1	110.0
	90.0	96.1	91.0	95.1	110.0	112.7	99.2
J 社	90.8	97.5	94.4	98.3	96.5	101.4	96.5
	90.5	98.2	94.9	97.1	94.9	100.3	96.0
K 社	67.0	85.2	84.7	94.4	88.5	95.4	85.9
	79.1	94.5	98.7	99.5	94.6	97.4	94.0
平均	94.0	102.1	99.7	101.2	98.5	101.6	99.5
	94.6	101.8	99.8	100.8	99.3	101.9	99.7

《2016年度貸切トラック営業速報》（収入、量の対前年同月比伸び率）
（上段：収入、下段：量）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期平均 （10月～3月）
A 社	95.8	101.9	100.0	99.8	98.3	100.2	99.3
	95.8	102.5	99.2	99.5	96.6	104.3	99.7
B 社	99.6	106.2	104.3	104.9	103.4	112.9	105.2
	94.0	101.1	97.5	97.4	95.0	97.7	97.1
C 社	102.8	105.6	104.3	107.1	102.7	105.1	104.6
D 社	92.4	100.7	95.8	95.8	90.7	99.0	95.7
	87.9	96.4	91.9	90.6	87.2	92.4	91.1
平均	97.7	103.6	101.1	101.9	98.8	104.3	101.2
	92.6	100.0	96.2	95.8	92.9	98.1	95.9

下期・16年度通期とも収入の減少率が取扱量の減少よりもわずかに大きくなったことから16年度の運賃単価は下降傾向にあったことが予想される。取扱量については長期的に個人消費に回復基調が出ていないことが荷動きに影響したと見られる。

WebKIT成約運賃指数（2014～16年度）



16年度下半期の「WebKIT」の成約運賃指数（10年4月を100とする）は、10月、11月、1月に前年同月の指数を下回ったが、3月は消費税増税前の駆け込み需要の影響による14年3月の「126」に次ぐ、調査開始以来2番目に高い「120」となった。依然として高い運賃指数で推移しているが、16年度通年の指数（10年度を100とする）は「111・7」で前年度比1・1ポイント低下し、2年連続スポット運賃は軟化している。

WebKIT成約運賃指数

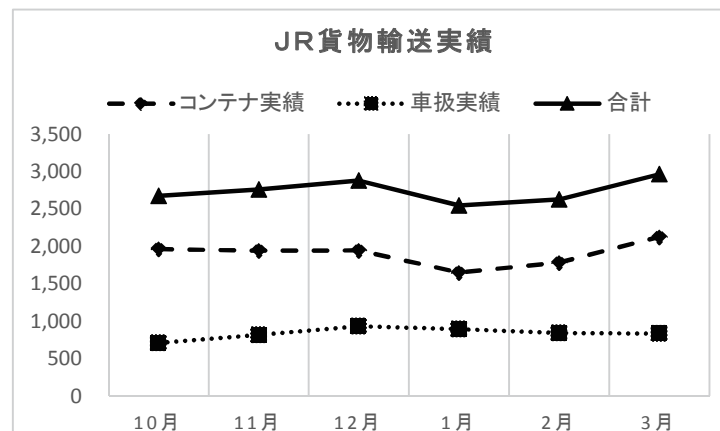
16年度下期（10～17年3月）の貸切トラック4社の営業状況は、収入の全社平均は前年同期比1・2％増の増収となった。16年度通期では1・6％増の増収となり、燃料価格下落の効果もあり、微増傾向が続いている。一方、取扱量は、全社平均が上期・下期および通期のいずれも4・1％減と前年を下回っており、荷動きの回復基調が表れていない。

貸切トラック

■ JR貨物輸送実績 2016年度

（単位：千トン、％）

	コンテナ		車扱		合計	
	実績	対前年比	実績	対前年比	実績	対前年比
10月	1,966	95.5	710	98.0	2,676	96.1
11月	1,945	102.7	816	111.4	2,761	105.1
12月	1,948	98.5	933	105.6	2,880	100.7
1月	1,651	101.6	896	107.3	2,547	103.5
2月	1,784	100.4	844	100.0	2,628	100.3
3月	2,128	101.8	836	102.6	2,964	102.1
下期計	11,422	100.1	5,035	104.2	16,456	101.3
通期合計	21,994	99.4	8,944	103.3	30,938	100.5



16年度下期（10～17年3月）の鉄道コンテナ取扱量は0・1％増の1142万2000ト、車扱は4・2％増の503万5000トだった。下期のコンテナは、自動車部品が自動車販売台数増加に伴い増送となり、通期では、化学工業品が前年を上回ったほか、トラックドライバ不足を背景に、飲料を中心とした食料工業品

JR貨物輸送実績

【中堅営業倉庫の2016年度営業状況】 (対前年同月比伸び率＝%)

倉庫業の営業速報		2016年度						
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
A社	収入	105.6	105.1	107.6	105.9	101.9	110.7	106.1
	入庫	102.8	97.0	110.9	107.6	89.4	109.5	102.9
	出庫	104.1	114.9	104.9	112.2	106.1	103.4	107.6
	残高	107.6	99.1	103.8	102.9	94.6	98.3	101.1
	回転率	55.4	58.3	65.3	51.6	53.0	64.0	57.9
	利用率	79.7	80.0	78.4	79.0	78.8	77.8	79.0
B社	収入	107.1	100.1	99.5	97.9	97.3	96.4	99.7
	入庫	97.6	99.6	102.4	105.3	98.6	105.9	101.6
	出庫	101.9	100.7	99.4	98.8	94.7	104.2	100.0
	残高	109.0	93.3	95.2	99.3	102.7	104.9	100.7
	回転率	79.3	82.0	91.3	68.7	69.1	94.6	80.8
	利用率	97.6	95.4	93.6	96.3	94.6	93.0	95.1
C社	収入	100.2	101.3	100.2	98.5	100.9	101.9	100.5
	入庫	91.6	122.1	99.3	114.2	121.7	123.7	112.1
	出庫	92.3	100.0	107.1	104.5	105.8	124.4	105.7
	残高	97.2	111.4	105.9	111.2	120.7	120.3	111.1
	回転率	64.7	68.7	64.3	54.5	57.2	72.1	63.6
	利用率	77.9	78.7	75.6	76.9	78.3	78.4	77.6
D社	収入	98.7	100.0	97.7	98.8	95.6	97.4	98.0
	入庫	104.9	97.8	106.0	116.4	95.1	116.1	106.1
	出庫	105.6	100.2	100.8	109.9	103.1	113.6	105.5
	残高	100.8	99.1	103.0	106.6	102.4	104.0	102.7
	回転率	20.7	18.2	21.1	15.6	17.4	23.4	19.4
	利用率							
E社	収入	99.2	100.6	99.7	101.1	99.6	100.2	100.1
	入庫	103.4	116.4	108.2	98.7	98.1	101.7	104.4
	出庫	104.9	114.8	108.3	108.2	104.0	102.2	107.1
	残高	106.6	107.4	107.3	103.7	100.7	100.4	104.4
	回転率	50.0	52.4	56.7	45.5	49.5	55.5	51.6
	利用率							
全社平均(6社)	収入	102.2	101.4	100.9	100.4	99.1	101.3	100.9
	入庫	100.1	106.6	105.4	108.4	100.6	111.4	105.4
	出庫	101.8	106.1	104.1	106.7	102.7	109.6	105.2
	残高	104.2	102.1	103.0	104.7	104.2	105.6	104.0
	回転率	54.0	55.9	59.7	47.2	49.2	61.9	54.7
	利用率	85.1	84.7	82.5	84.1	83.9	83.1	83.9
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均

■営業普通倉庫 21社実績 2016年度(単位:万トン、%)

	入庫高		出庫高		保管残高	
	数量	対前年比	数量	対前年比	数量	対前年比
10月	231	△0.4	222	△4.7	487	△0.3
11月	231	6.8	239	11.1	478	△2.3
12月	230	△2.1	240	0.0	469	△3.3
1月	203	3.8	192	1.2	480	△2.2
2月	208	△3.1	207	△2.2	481	△2.6
平均	221	0.8	220	1.0	479	△2.2

※国土交通省統計より。17年3月は現在集計中のため未発表

■鉄道コンテナ月別輸送実績2016年度（全国通運、日本フレートライナー、日本通運）（個、%）

全国通運			日本フレートライナー			日本通運		
	個数	前年比		個数	前年比		個数	前年比
10月	189,163	97	10月	33,009	101.3	10月	167,761	95.0
11月	18,724	107	11月	32,982	111.1	11月	164,915	102.0
12月	187,615	98	12月	34,315	105.0	12月	167,238	98.7
1月	159,449	102	1月	26,647	106.3	1月	144,028	102.5
2月	169,644	99	2月	29,453	107.9	2月	159,095	102.5
3月	199,699	102	3月	36,834	107.7	3月	188,821	102.3
下期計	924,294	101	下期計	193,240	106.6	下期計	991,858	100.5
通期計	2,102,072	100	通期計	369,703	105.5	通期計	991,858	99.0

※全国通運と日本フレートライナーの各月実績は速報値によるため合計値と累計は一致しない。

や積合せ貨物が堅調に推移した。下期の取扱は、冬季の気温低下に伴って灯油を中心に増送した。各社の鉄道コンテナの月別輸送実績は全国通運が下期1%増、通期が前年並み、日本フレートライナーが合併効果もあり下期6・6%増、通期5・5%、日本通運が下期0・5%増、通期1・0%減となった。

中堅営業倉庫

16年度下半期（10～3月）の中堅営業倉庫5社の営業状況は、全社平均で収入は前年同期比100・9%の増収となった。入庫は105・4%、出庫は105・2%、保管残高は104・0%で、いずれも前年実績を若干上回った。

収入は5社中3社、出庫、残高は5社すべてが前年同期比プラス。通期でも収入・入出庫・残高は前年を上回り、荷動きには若干の回復傾向がうかがえる。

営業普通倉庫

16年度下期（10月～17年2月まで）の営業普通倉庫21社の営業状況は、入庫高の平均が22万1千トンで前年同期比0・8%増、出庫高の平均は22万0千トンで1・0%増となった。ともに前年同期比を上回り、わずかながら荷動きに回復傾向が見られる。